

第 2 章

統計データでみる福島県経済

第2章 統計データでみる福島県経済

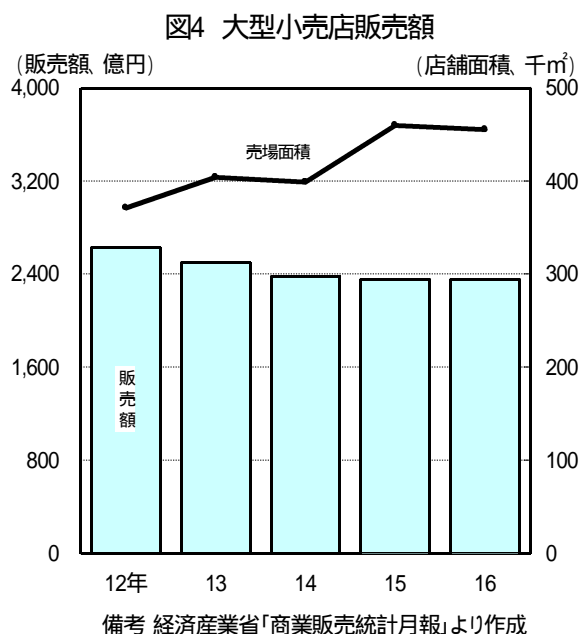
1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

平成16年の大型小売店販売額は、消費者マインドの低迷や台風等の天候不順の影響もあって、総額2357億91百万円(全店舗ベース)となり、既存店ベースでは猛暑の影響を受けた7月は前年を上回ったものの、年間を通して低調に推移し、7年連続で前年を下回った。

業態別では、百貨店が512億12百万円(同上)となり、既存店での比較では4年連続前年を下回り、スーパーは1845億79百万円(同上)となり、既存店での比較では7年連続で前年を下回った。

なお、平成16年の調査対象店舗数は、73店舗となり2年連続で増加したものの、店舗面積は1.0%減少した(図4)。



また、店舗の増減要因を取り除いた既存店ベースでの販売額の前年比をみると(図5)、平成16年は、前年比3.0%減となった。

業態別では、百貨店は身の回り品が第4半期には前年を上回ったものの、主力の衣料品、飲食料品がすべての四半期で前年を下回ったことから、年間では3.6%減となった。スーパーは飲食料品が第1、4半期には前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、家庭用品、その他の商品がすべての四半期で前年を下回ったことから、年間では2.8%減となった。

次に販売額の約78%を占める衣料品と飲食料品についてみると(図7)、衣料品は猛暑の影響を受けた7月を除き、年間を通して前年を下回り、年間で5.0%減となった。飲食料品は第1、4半期で前年を上回ったものの、年間では0.6%減となった。

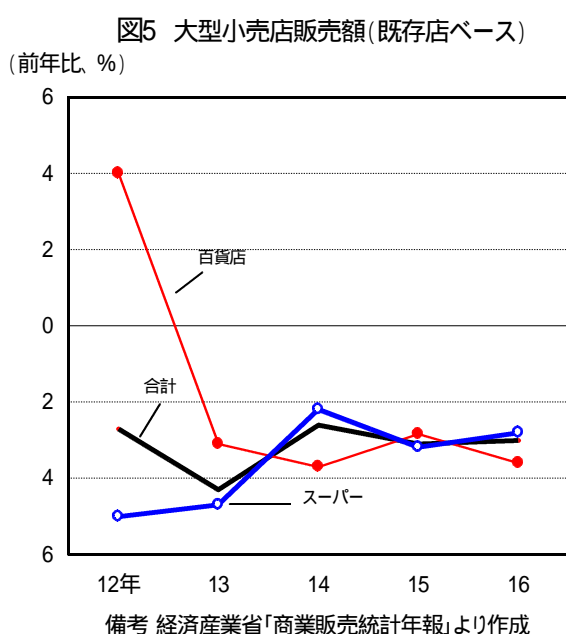


図6 四半期別大型小売店販売額(既存店ベース)

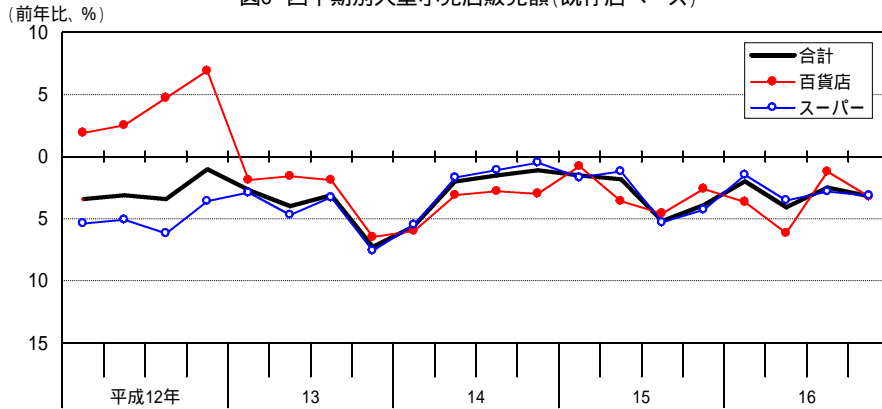
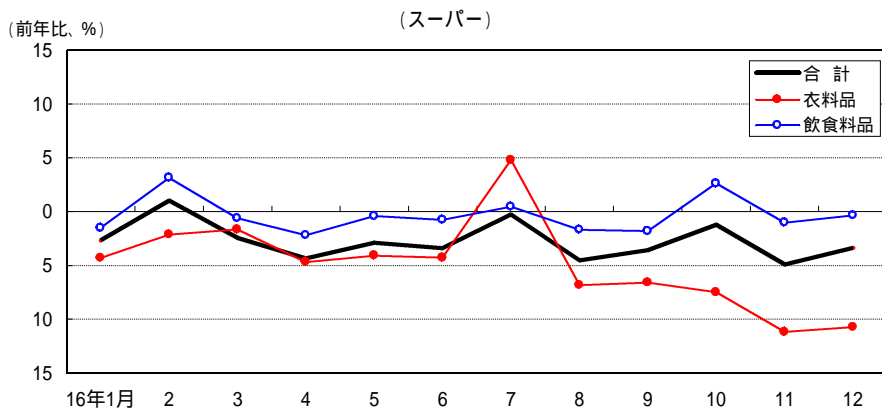
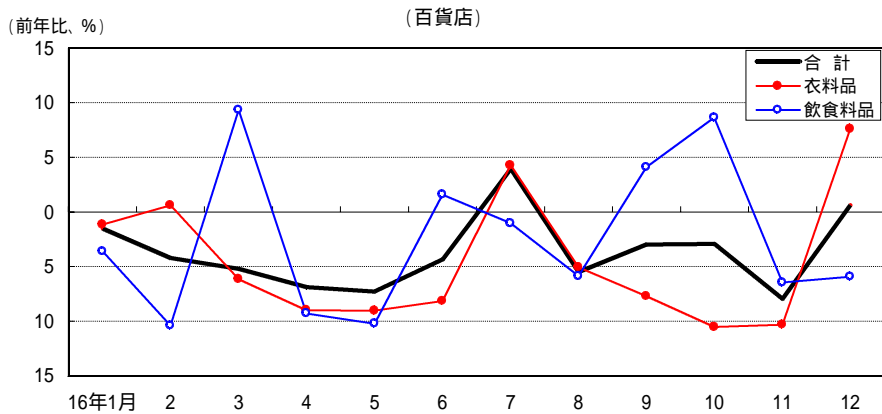
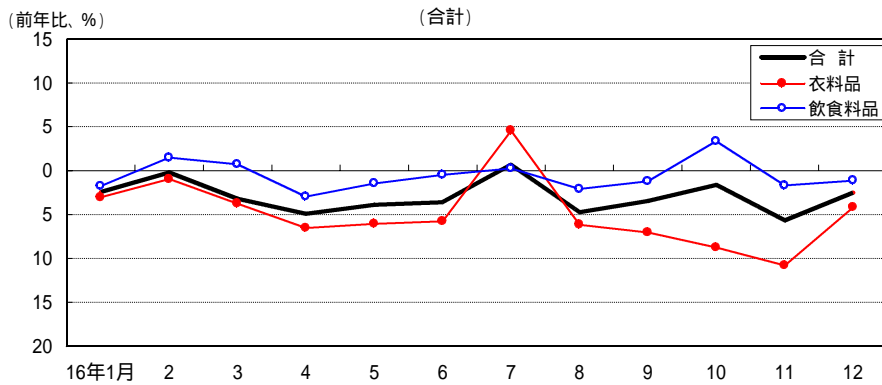


図7 月別大型小売店販売額(既存店ベース)



(2) 乗用車新規登録台数

平成16年の乗用車新規登録台数は76,175台となり前年に比べて0.2%減少し、前年より減少幅は縮小したものの4年連続で前年を下回った。

車種別にみると(図8)、大型車が8.7%、小型車が1.6%、軽自動車が5.5%前年を上回ったものの、中型車が16.8%減となり前年を下回る要因となった。

四半期別にみると(図9)、第4半期は大型車(2000cc超)のモデルチェンジ効果や低燃費・低価格が人気を集める軽自動車(660cc以下)の好調な販売に支えられて前年を上回る動きがみられた。また、大型車は引き続き第、四半期も前年を上回り、小型車(660cc超1500cc以下)は新車投入効果により、第、四半期に前年を上回った。一方、中型車(1500cc超2000cc以下)はすべての四半期で前年を下回り、軽自動車も第四半期以降前年を下回った。

図8 乗用車新規登録台数
(前年比・車種別寄与度)

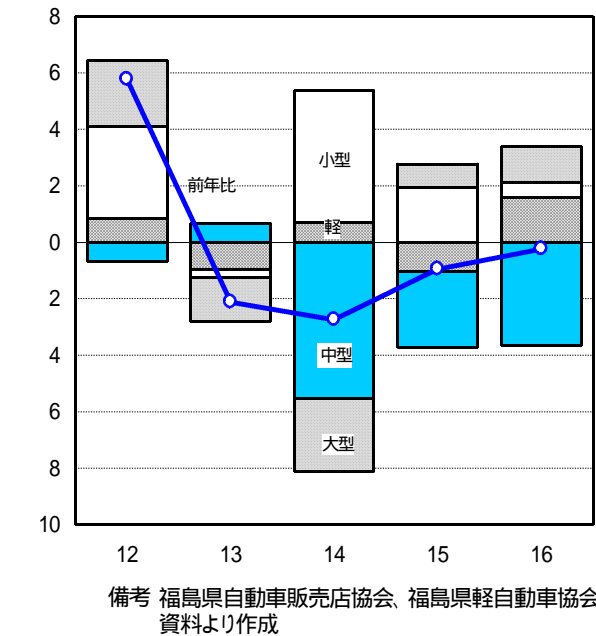
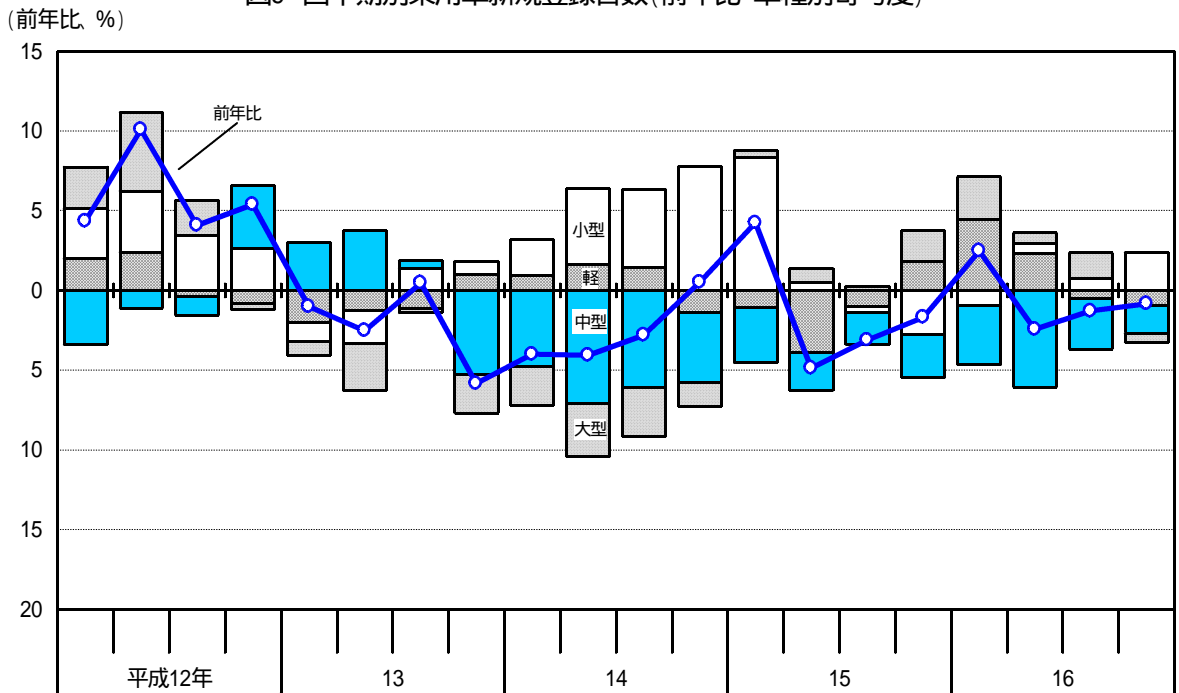


図9 四半期別乗用車新規登録台数(前年比・車種別寄与度)



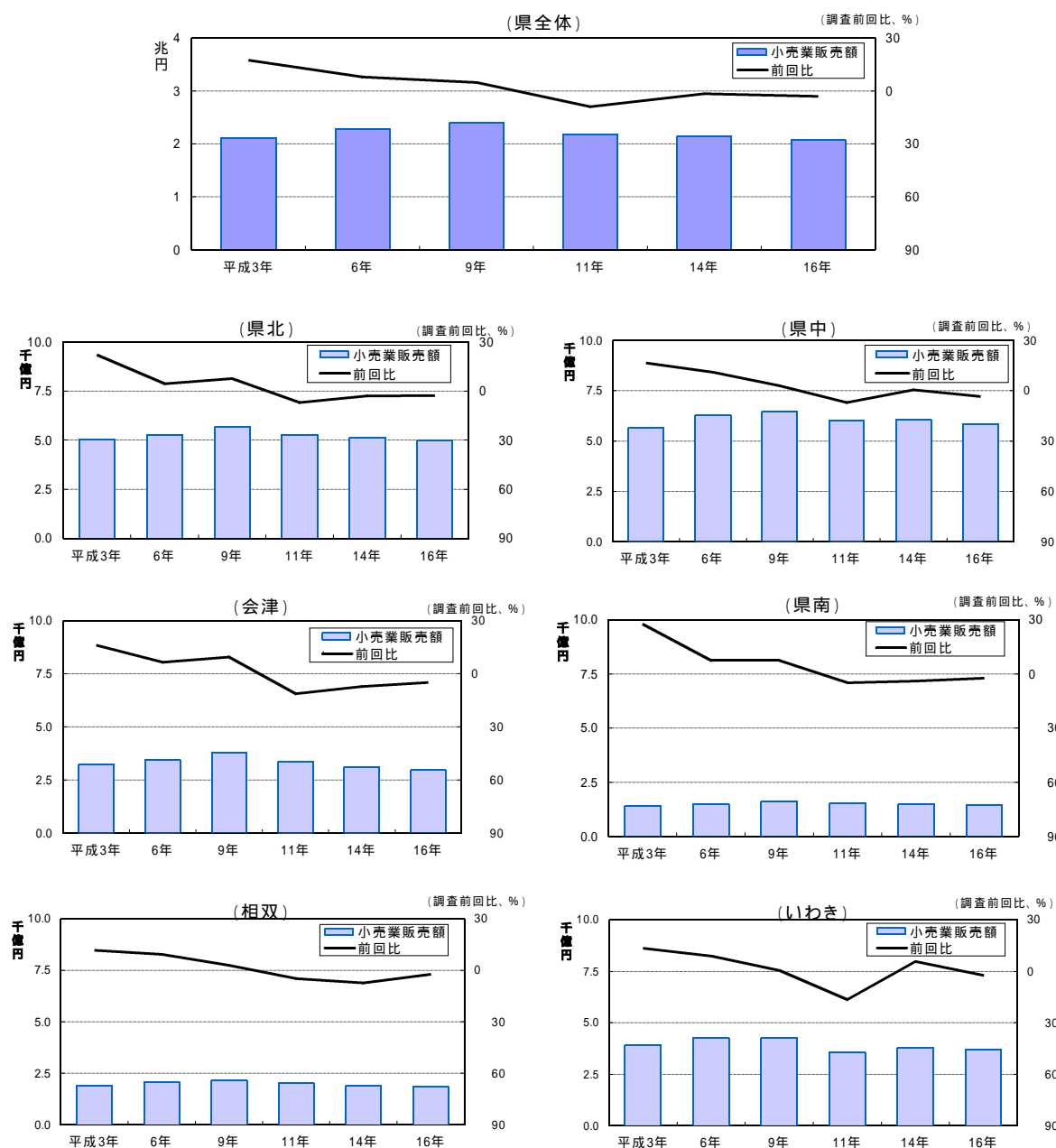
(参考) 県内各地域の主な指標の動き

(1) 小売業販売額

商業統計調査により福島県の小売業年間販売額をみると、平成16年は2兆789億円となった。平成9年までは増加傾向で推移していたが、平成11年を境に、近年は減少傾向で推移している。

地域別にみると(図10)、県中地域が最も販売額が多く、近年およそ6千億円前後で推移していたが、平成16年は6千億円を下回った。次いで県北地域がおよそ5千億円をやや下回る程度、いわき地域がおよそ3700億円程度、会津地域がおよそ3千億円前後で推移している。平成16年の販売額を、前回の調査結果(平成14年)と比べると、すべての地域で前回調査結果を下回っている。

図10 地域別小売業販売額(前年比)の推移



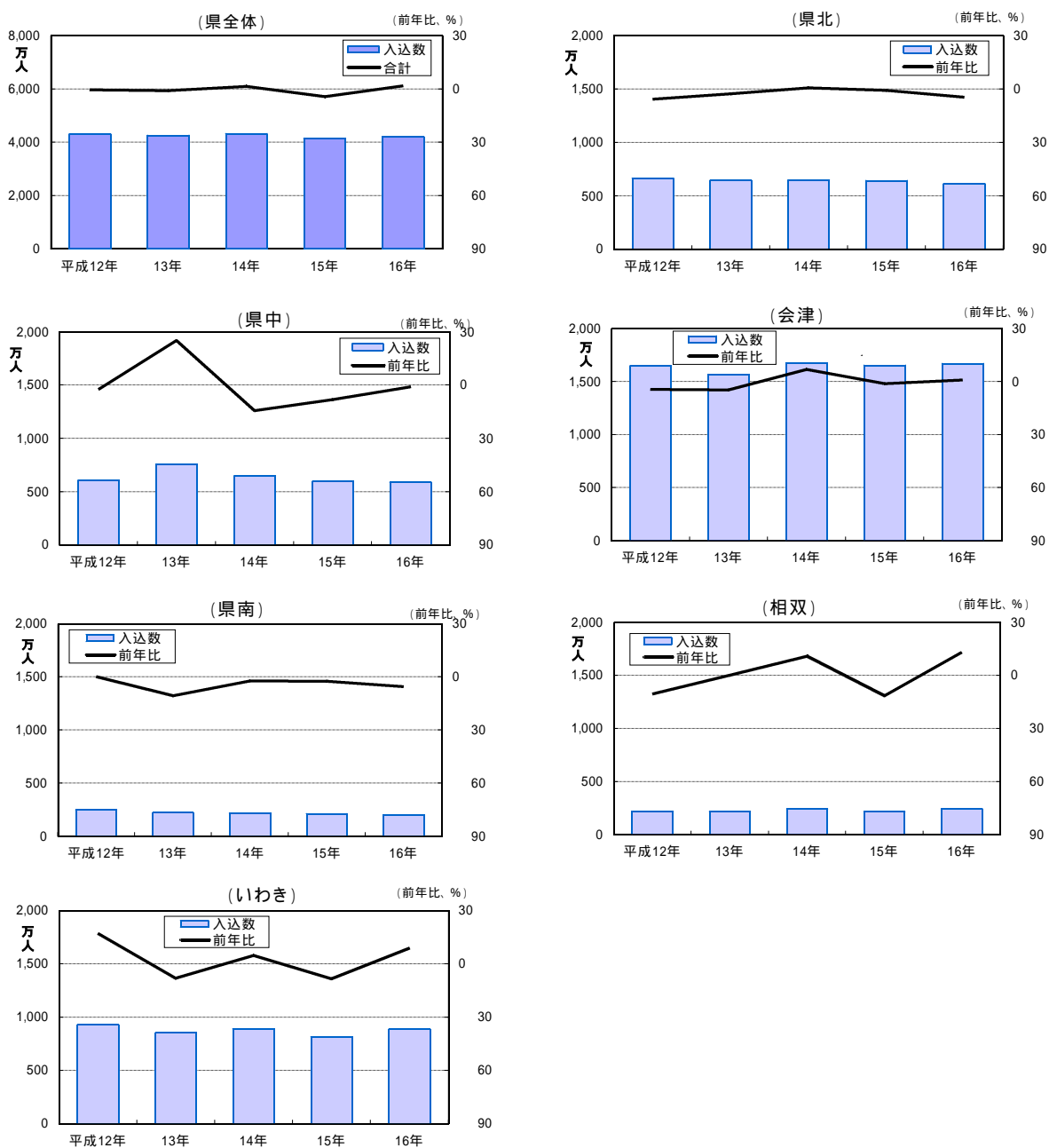
備考 福島県企画調整部 情報統計領域 産業統計グループ 「平成16年商業統計調査速報」より作成

(2) 観光客入込数

福島県内の観光客入込数は近年およそ 4,300 万人台前後で推移し(図 11)、平成 15 年は天候不順の影響もあって前年を下回ったものの、平成 16 年は 4,199 万人となり 2 年振りに前年を上回った。

地域別にみると、相双、いわき地域では夏場の好天にめぐまれ、海水浴客が増加したこと、また、会津地域では NHK 大河ドラマなどの効果により前年を上回ったものの、県北、県中、県南地域では前年を下回った。

図11 地域別観光客入込数(前年比)の推移



備考 福島県商工労働部地域経済領域観光グループ 観光客入込状況より作成